



桂小だより

KATSURA NEWS LETTER

8月号

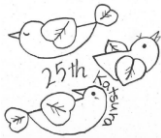
令和3年7月20日

横浜市立桂小学校

Web: <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/katsura/>

学校についての詳細や学校生活についてはHPをご覧ください。

E-mail: y3katura@edu.city.yokohama.jp 桂小学校HPのQRコードはこちら→



セミと研究

校長 寺澤 みゆき

数週間前まで鳥のさえずりに包まれていた桂小学校も、梅雨明けと同時に蝉時雨が降り注ぐ候となりました。早朝からの耳鳴りのようなセミの声とともに、何人もの子どもが抜け殻をもって登校してくる姿がみられるようになると、いよいよ夏本番だと感じます。

セミ、というと私は2年前のニュースを思い出します。

「セミ成虫の寿命1週間は俗説！」この記事をご覧になった覚えのある方、いらっしゃいますか。私は、一昨年この題名に惹かれ記事を読んで感心し、機会があれば子どもたちにも伝えたいものだ、と思っていました。

一般的に、セミは「地上に出てから1週間程度しか生きられない」といわれています。しかし、それは俗説で、実は1カ月くらい生きているということ、当時高校3年生だった植松蒼さんが証明した、という記事でした。この記事を読んで私がすごいと感じたのは、そのきっかけと調査方法でした。

植松さんは小学1年生のころから虫に興味を持ち、セミの鳴く時間帯や雄と雌の羽化の時期の違いなどについて調べてきたそうです。その中で、セミの成虫は短命と言われているが「そもそもセミの死骸を夏の間に見かけることが少ないのはなぜか」と疑問をもったことが寿命の調査のきっかけでした。そして、調査方法は「捕まえたセミの羽に油性ペンで番号をマーキングして放し、後日再捕獲を試みる」という、誰にでもできそうな単純なものでした。誰にでもできないのは、その数と期間です。

『植松さんは2016年の7月中旬から9月中旬にかけて、笠岡市内の住宅地や雑木林など4カ所ではほぼ毎日、この調査を繰り返し、アブラゼミ、ツクツクボウシ、クマゼミなど計863匹にマーキング。15匹を再捕獲し、4匹を再再捕獲した。植松さんは「なかなか再捕獲できず、調査の効率は非常に悪かった」と笑うが、調査の結果、アブラゼミ、ツクツクボウシ、クマゼミの3種で10日以上生存を確認。最長生存確認記録はアブラゼミが32日間、ツクツクボウシが26日間、クマゼミが15日間だった。』（山陽新聞2019.6.19）

この研究報告は、「中四国地区生物系三学会合同大会」の高校生の部（動物分野）で最優秀賞を受賞しました。これに対し、植松さんは「疑問を解決するために、自ら考えて取り組んだ点が認められたのでは」と喜んでいただとのこと。私は、植村さんの研究の一連の取組は学習指導要領の「生きる力」に通じているものと考えます。

明日からいよいよ夏休みです。じっくり時間をかけ、取り組むことができる期間です。自分の疑問を解決するために、自ら方法を考え取り組めば、ひとつの研究になります。

研究と言わずとも、日常は時間制限のため、取り掛かれなかったことに、とことん取り組んでもよいでしょう。夏休み明け、子どもたちの主体的に取り組む、成長した姿に再会するのが楽しみです。

地域の皆様、保護者の皆様、5年西湖宿泊体験学習、6年日光修学旅行ともに延期となりましたが、皆様のご理解と大きな支えにより、その他の教育活動は大きな変更なく実施できました。心より感謝いたします。今後とも本校の教育活動へのご理解ご協力を、どうぞよろしく願いいたします。